

物性研だより

第32卷
第4号

1992年11月

目 次

○ 「物性研究所将来計画(中間報告)」に関する私見	菅原 忠	1
○ 物性研に着任して	河野 公俊	3
○ 物性研に着任して	常行 真司	5
物性研究所談話会		8
物性研究所創立35周年記念行事について		11
物性研ニュース		
○ 東京大学物性研究所 助手公募		13
○ 人事異動		15
○ 平成4年度 物性研究所協議会委員名簿		17
○ 平成4年度 後期短期研究会一覧		18
○ 平成4年度 後期外来研究員一覧		19
○ 平成5年度 前期共同利用の公募		50
○ テクニカル・レポート 新刊リスト		71
編集後記		

東京大学物性研究所

ISSN 0385-9843

「物性研究所将来計画（中間報告）」に関する私見

東京大学名誉教授（物性研究所） 菅 原 忠

1. 共同利用について

最近の様子は知りませんが私の在任中は「受け身」の性格のものが比較的多かったように思います。これは設立の趣旨から考えて致し方ないことでしたが、客観的（学問的）にみて必ずしもプラスの成果とは言えないものもかなりあったように聞いていますし私自身にとってもそうでした（とくに施設利用において）。これからは「受け身」ではなく物性研からよびかける形の、しかも客観的に学問上プラスの、共同利用が望ましいと思います。「先導的…」とはこのような意味のものと理解したいものです。私個人の考え方（持論）ではS O Rや中性子など一部を別にすると一般部門は共同利用研でない方が成果をあげられるのが物性科学の現状のような気がしております。

2. 研究の自由度

当然のこととして学問は個人の研究（発想）の自由なくしては発展がありません。新計画においてスタッフの自由な発想が研究センターの枠にとらわれ妨げられないか、心配です。センター間の連係や流通をよくし自由度の広い場をつくることが望ましいと思います。

3. 人材

どんな研究計画にしてもよい人材を得ることが最重要課題で逆説的に言えばよい人材を集めればよい研究計画が自然につくられると考えます。今回の計画はかなりの部分が現状の延長線上にあるように見えますが、現在のスタッフが中心となって練られたものようですから致し方ないのかもしれません。しかし、新キャンパスへの移転が念頭にあるだけに物性研が新しく生まれ変わるチャンスであり、昭和30年ころの創立当時の空気と同じようにゼロからの出発にも等しい態度・心構えがほしいものです。極論ですが、今のスタッフは一度辞任してフリーハンドで構想をねり、新しく人材を集める位の意気込みがあって良いと思います。そのため将来計画の内容に変更があっても止むを得ないでしょう。ただしS O Rや中性子など大型でどこかで世話を必要のある設備は延長上にあって差支えないと思います。この項（人材）の内容は私のものですが、外部からも似た意見を聞いております（詳細は伏せさせて頂きます）。

4. 国際化

国際化の推進は大変結構なことだと思います。これに関連して希望をのべさせて頂きます。私の経験からすると外国人が来所滞在の際の研究費の確保に大変苦労しました。サバティカルや短期

滞在は別として半年～1年いて本格的研究（サバティカルでもそんな人もいましたが）をしたい人にはかなりの研究費（物性研の予備費などではまかないきれぬ）が必要でした。今もそんな方（2人ばかりですが）には申し訳ないことをしたと後悔しています。日本の予算制度の制約がありましたが、新しい装置がつくれる程度の費用が充当できるような工夫ができたらと思います。経済大国の名にかけても研究費の弾力化が期待されます。学振の制度を超える外国人のための各種制度もこのような線で運用されるものと期待します。

5. 新物質科学研究センター

中間報告にある各研究センターのかなりのものが現状の延長もしくはそれに近いもので新生物性研は果してこれでよいのかとの疑問は既に3.でのべました。「新物質科学研究センター」も同類と言えるかもしれません、これは新しい物性の発見にもつながるとの期待から物性研の中核的存在として重点（人的にも金の面でも）をおかれるのが望ましいと考えます。中間報告以上の強化（とくに自由な発想や試行の可能な）を期待します。

6. 研究の時限計画

議論はあります、期限をきることは結構だと思います。全体の活性化につながる一つの方法でしょう。問題は所内での評価を公正に行なうにはどうすればよいかと、既にふれた研究の自由（大学以外では自由度がなかったり期限がついたりしていますが大学では尊重されるべきものと考えます）との調和をどうするかにあると思いますが、良い idea はありません。

以上、以前のメモをもとにすこしづつ（眼がまだ不自由なため）書いたのですが、そのため多分に舌たらずで自分でも満足なものではありません。しかし敢えてお送りすることに致しました。中間報告の理解不足もありましたらお許し下さい。

注記：この御意見は所長あてに私信で送付されたものですが、菅原先生の御了解の下に本誌に掲載することに致しました。なお、先生からは加筆の御希望もありましたが、締切り等の都合で元の原稿のまま掲載することになった旨をお断り致します。

物性研に着任して

河野公俊

本年4月1日より物性研究所に勤務することになりました。宜しくお願ひいたします。新任者は“物性研だより”に小文を書くことになっているという編集担当者からのお話なので、まずは自己紹介から。私は、1982年に東大理学部、佐々木・小林研究室で博士課程を修了し、3ヶ月間学振の奨励研究員を勤めた後、兵庫教育大学の助手として、兵庫県社町に赴任した。社町は神戸から車で1時間ほどの所にある、緑豊かな田園地帯である。それまで、関東を離れて生活したことがなかったので、社での生活は非常に新鮮であった。どちらかと言うと都会よりは自然が好きなので、狐が徘徊していたり、大学の裏山で山菜摘みやきのこ狩りができたのは楽しい思い出である。そこでは大学院の頃から続けてきた「ヘリウム液面電子」などの低温実験の準備をするかたわら、桑原五郎先生のもとで流体现象などの古典的現象論を勉強させていただいた。多分、物性研などでは何やら憚られるような研究であったかもしれないが、物理現象に対する興味の持ち方、姿勢のようなものを教えていただいたように思う。

1987年春から2年間、マインツ大学のLeiderer教授のもとで、「蒸着水素膜上の2次元電子」の研究を行った。最初は文部省の在外研究員として、また途中からはフンボルト財団の奨学生(Stipendiat)として滞在費援助を受けた。特に、フンボルト財団からは昨年、さらに2ヶ月間の追加援助をいただき、コンスタンツ大学に異動したLeiderer教授を再び訪れて、共同研究を継続することができた。概して、フンボルト財団の対応はフレキシブルで、投資効果を高めようとする配慮が随所に見られる。文部省のそれが杓子定規になるくらいがあるのと比べると対照的である。これについては、ドイツ特有の合理主義のせいもあるだろうが、「ドイツの教授の方が日本の教授よりも政府からより信頼されている」とこの現れであるというのが私見である。

ドイツの大学でとくに良いと思ったことの一つは、研究を支える組織と設備が充実していたことである。機械工作室、寒剤供給室、エレクトロニクス工作室、などがあり、専任のスタッフが製作や、助言を行なってくれる。また、製図室などもあり、論文の図面を清書してくれる。今日のように、コンピュータ・ソフトの発達した時代には無用と思われるかもしれないが、プリント基板作成室と協力してフォトリソグラフィーもやってくれるので、なかなか便利である。このような研究支援体制がしっかりしているのも、もともとマイスター制度が示すように技術職を重視する社会的土壤があるせいで、日本で同じことをやろうとしても難しいのかもしれない。しかし、日本では最高レベルに属すると考えられる物性研の研究支援体制でも、ドイツの地方大学の物理教室のそれと比較して勝っているとは言えないようと思えるのは残念である。このようないわゆる研究の基盤整備は、「小さな」基礎研究の擁護には重要な要素であると思われるが、いかがなものだろうか。

さて、1989年9月から今年の3月までは、筑波大学に勤務していた。筑波大学では、物理学系所

属、低温センター専従と言う身分であった。「つくば」はご存じのように国立及び民間の理工系研究所の集中することで、独特な雰囲気のあるところである。デパートなどもあり、都会的である一方、公園などの緑も多く、初夏にはカッコウの鳴き声が聞こえるなど、自然環境にも恵まれている。生活環境としては非常に高いレベルにあると思う。さすがに国家プロジェクトとして政府が力を入れただけのことはある。それに比べると、当たり前のことではあるが、東京の中心にある物性研の通勤事情は非常に厳しい。今のところまだ適當な住居を見つけるに至っていないので、「つくば」から通っている。片道2時間弱の往復は時間の浪費以外の何物でもないが、どう頑張ってみてもそれを半分にするのは絶望的である。この点に関しては、あまりに楽観的であったと反省している。

肝心の研究であるが、大学院時代から現在に至るまで、ヘリウム液面電子や超流動ヘリウム膜の波動現象（第3音波）の研究などを主に行なってきた。この系では、2次元ウィグナー結晶や2次元超流動転移などの現象が発見された。これらの現象はいわゆる量子凝縮系の自由表面や界面および吸着膜に関連した低次元物理現象である。今後とも量子性を持った表面・界面現象に興味を持ち続けて行こうと思う。例えば、2次元ウィグナー結晶を使った液体³He表面の動的性質の研究などを計画している。

これまで、少ない研究費と実験設備でもやっていける研究を心掛けてきた。最近我々の行なった、「フィボナッチ格子中の第3音波」の実験も、現実には筑波大学の優れた研究環境のもとで急加速された面はあったが、基本的にはそのような限られた環境のもとで考えられた研究である。これからはそのような制約に囚れることなく、自由に実験ができるものと期待している。また、共同利用研という場を活用して、多くの方々との交流を通じて、多方面への研究の発展を計って行きたいと考えている。何卒宜しくお願ひいたします。

物性研に着任して

常行真司

4月1日付で理論部門に着任し、新しい研究室をつくることになりました。右も左もわからぬ若輩ですが、無知ゆえの大言をご容赦の上、おつき合いの程どうかよろしくお願ひ申し上げます。まとまりがないままで恐縮ですが、以下すこしばかり自己紹介をさせていただきます。

「むかしむかし、石油ショックでトイレットペーパーが日本中から消え失せたりしていた頃、石油よりも長持ちするエネルギー源を見つけたいと思った、とびきり八方美人の少年がおりました。」（中略）少年がなんとか受験戦争をくぐり抜け東京大学に入った頃には、原発反対運動があちこちで盛り上がったり、原発の危険性を説くゼミがあつたりで、原子力はあまり喜ばれていないようでした。第一、燃料のウランにだって限りがあります。そこで少年は原子力工学科や電気工学科にいくのをやめにして、もっと基本的な学問を学ぶところから始めようと考えました。」

というわけで私は物理学科に進学しました。アカデミックな動機とは言い難いですね。大学院は、光触媒反応（水溶液中の半導体電極に光を当てると、水溶液が水素や酸素のガスに分解する反応）を理論的に解明したいとおっしゃるのを聞いて、塙田捷先生（理・物理）の研究室にはいりました。最初のまとめた仕事は、固体表面でのイオン散乱における電荷移動についての理論でした。

博士課程の途中で、筑波大学から本郷に戻っていらっしゃった青木秀夫先生の助手になりましたが、それと前後して岡山大学地球内部研究センターの松井義人先生と一緒に仕事をする機会があり、以来自分の父親と同じ年齢のこのユニークな先生との交友が続いています。その学問的産物が、今私の中心テーマの一つである、分子動力学法によるシリカ (SiO_2) の構造シミュレーションです。地球の質量の2/3は SiO_2 と MgO のませものですから、シリカは地球科学にとっては基本中の基本ともいるべき物質です。実を言うと、研究会やセミナーを別にして私が最初に物性研と関わりをもったのも、計算機シミュレーションで見つかった超高圧での構造相転移が本当に起きるかどうか、八木健彦先生の研究室で実測していただいた時のことです。地球科学には面白い物性の問題がたくさんありますので、今後も異分野の方々との交流を続けながら発展の道を探るつもりです。そういうれば物性ではありませんが地熱や潮汐力もエネルギー源になります。

触媒はあまりに難しくて今のところ手をこまねいているばかりですが、関連分野にアンテナをはりながら、なんとか突破口を開こうと機をうかがっています。強いて言えば今やっている電子状態計算法の開発も、触媒研究に関係無しとは言えません。この研究所に在職中に、なにか大きな仕事ができたらと思います。

さて「現在」は過去から未来への架け橋であって欲しいのですが、世の中はそう簡単にはできて

いないので、ハンマーやらつるはしやら持ち出して基礎工事あたりから始めなければなりません。

これまでの仕事には必ず何らかの形で計算機を使ってきましたから、今後好きなよう計算機を使えるかどうかは死活問題です。「好きなように」というのは、仕事の内容に適した計算機を好きなときに必要なだけ使えるという意味です。物性研に来て最初に買ったのは、理学部から移管したノートパソコンを所内のイーサーネットにつなげるためのインターフェースでした。運良く学内情報通信ネットワークであるUTNETが六本木にもつながったところだったので、大型計算機センターの使い勝手は本郷にいたときと殆ど変わらなくなりました。端末・エディター・ワープロとして一日中殆どフル回転のこのパソコンが、私の机の主役です。その他特別経費をいただいて、ワークステーションも購入することになりました。最近のワークステーションは大変高速で、小規模な数値計算には十分実用になります。

こうして一通りの環境が整い仕事をはじめてすぐに直面したのは、大型計算機センターが大変混雑していて、スーパーコンピュータのジョブ投入後の待ち時間が例年になく長いという問題です。原因の一つは、計算物理学の重点領域科研費が動いているためでしょう。せっかく計算の予算が増えて、同じパイ（計算機）を分けあっていては限界があります。年末に機種更新があって処理能力が上がるでの、しばらくの間息が付けるはずですが、過去の機種更新後の様子から考えてそれが長続きするとは思えません。パイを食べる研究者の数も食欲を増す一方なのです。そして来年度で科研費が終了したあとを考えると、今度は「バブルの崩壊」を心配せずにはいられません。

解決法はいくつか考えられますが、やはり全ての計算物性物理屋が待ち望んでいるもっとも直接的な方法は、物性物理学専用のスーパーコンピュータ（超並列機を含む）を持つことでしょう。やっかいな計算機の管理・運用を何処がやるかは問題ですが、センター・オブ・エクセレンスをめざす全国共同利用の物性研究所が引き受けるのは、大変自然なことのように思いますし、そのときは私もできる限りお手伝いするつもりです。なんとか予算がついて欲しいものです。

実は物性研に移って来るなり将来計画と柏移転問題を突きつけられて、殆ど何も知らなかった私は当惑するばかりでした。このことは、「全国共同利用」を能動的に行うために駆け出しの理論屋は何をすべきかという、私にはまだよく答えられない問題とも関わっています。諸先生方との会話や物性研だよりの辛口の寄稿、或いは将来計画に関する懇談会から得る断片的な知識だけでは、判断に苦しむことがあります。物性研は今年で35周年だそうですが、35年分の清算には、35年間の事実だけでなく、そうなった経緯をもっとよく知る必要があるのかも知れません。

しかしともかくも、住み慣れた古巣の本郷から移ってきてはや半年が過ぎ、ここも大変住み心地がよいことがわかりました。学部との違いという意味で何より印象的だったのは、研究室の枠を越えたシンポジウム、研究会、談話会が多いこと、そして国際会議などにあわせて立ち寄っていく海外の研究者が多いことです。今のところスーパーコンピュータがないのは残念ですが、よい環境を

つくるのはまず第一に人間であり広い意味でのソフトウェアだと思います。

最後になりましたが、新しい巣作りに協力して下さった事務官、技術官、ならびに学生を含めた所内の研究者の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

物性研究所談話会

日 時 1992年9月4日(金) 午後3時～4時

場 所 物性研究所 Q棟1階 講義室

講 師 Ryszard Radwansky

(所属) (Van der Waals-Zeeman Lab. University of Amsterdam

題 目 Magnetic and Electronic Properties of 3d-4f Intermetallics

要 旨

Magnetic and electronic properties of an intermetallic compound containing the f atoms are understood by considering two independent electronic subsystems, the conduction electrons and f electrons. Magnetism of these subsystems is of different nature. The conduction-electron subsystem is discussed in the band model whereas the f electronic subsystem exhibits the discrete energy spectrum. Magnetic and electronic properties of the f subsystem are well described within the single-ion Hamiltonian including crystalline-electric-field (CEF) and exchange interactions. The CEF and exchange parameters derived from magnetization curves, measured on single crystals in high magnetic fields (ErNi_5 , $\text{Ho}_2\text{Co}_{17}$), from inelastic-neutron-neutron-scattering and specific-heat (SH) experiments allow for construction of the energy-level scheme of the f subsystem.

In discussion of the specific-heat experiments the question "*where is the Fermi level in an rare-earth intermetallic compound composed from two electronic subsystems of the different nature?*" is addressed. It has been shown that the f electrons lie together with the conduction electrons at the SH probing (virtual Fermi) level. In the proposed model, it is possible as excitations in these electronic subsystems are many-body and single-particle excitations, respectively.

Provided the sufficient time, the formation of the non-magnetic (N-M) Kramers doublet

$$\Gamma_9 = \sqrt{3}/2 | \pm 3/2 \rangle + | +1/2 \rangle \mp | 9/2 \rangle$$

as the ground state for the f^3 electronic subsystem by ordinary CEF interactions of the hexagonal symmetry will be discussed. Single-ion magnetic properties of the N-M Kramers doublet ground state with the zero magnetic moment, the finite susceptibility at 0 K, the temperature dependence of the susceptibility as well as its remarkably large anisotropy are very intriguing.

In compounds exhibiting the heavy-fermion behaviour the N-M Kramers doublet is

proposed to be the ground state of the f electrons, at least of uranium compounds with the hexagonal symmetry. This state behaves like a half-filled band at the Fermi level allowing for a "delocalization" of the f electrons. Properties of some heavy-fermion compounds will be examined in correlation with the results of the proposed model.

日 時 1992年9月18日(金) 午前10時30分～12時

場 所 物性研究所 Q棟1階 講義室

講 師 Dr. G. L. Wells

(所属) (アメリカ物理学会, Physical Review Letter編集長)

題 目 What Happens When You Send a Manuscript to Physical Review Letters?

要 旨

General statistics for PRL will be discussed (number of manuscripts received, number published, countries of origin, etc.). Then the more specific case of manuscripts involved with condensed matter physics will be considered, including referee selection and utilization of our computer data base for manuscripts and referees. Some aspects of manuscript preparation will be considered. There will be time available for discussion of questions from the audience.

日 時 1992年10月12日(月) 午後4時～5時

場 所 物性研究所 Q棟1階 講義室

講 師 E. V. Sampathkumaran

(所属) (Tata Institute of Fundamental Research, Bombay, India)

題 目 Anomalies in Ce and Pr compounds

要 旨

Though the 4f orbital in the case of rare-earths has been traditionally considered to be localized, several interesting features in the thermal, transport, magnetic and spectroscopic features are known in the current literature on Ce systems. This aspect of Ce systems will be demonstrated with suitable examples from our studies.

We also present our recent results on PrCu_2Si_2 and PrCu_2Ge_2 to highlight novel 4f-delocalization effects even in the case of Pr.

日 時 1992年10月26日(月) 午後4時～5時

場 所 物性研究所 Q棟1階 講義室

講 師 常 行 真 司 氏

(所属) (東大物性研・理論部門)

題 目 “ SiO_2 (シリカ) の計算機シミュレーション”

要 旨

地球の質量の2/3は SiO_2 と MgO の化合物だと言われています。地球科学にとって基本中の基本とも言うべきこの SiO_2 は、簡単な組成からは想像もできないほど多くの安定な構造(多形)をもち、それぞれ変化にとんだ物性、相転移を示します。さらに驚くべきことには、それらの殆ど全ての性質が、等方的で非常に簡単な一組の原子間ポテンシャルを使うだけで、計算機シミュレーション(Molecular Dynamics simulation, MD)によって再現できてしまうのです。

ここではシミュレーション手法の一般論から始めて、 SiO_2 の原子間ポテンシャルの作り方、シミュレーションでどのような物性、相転移、構造変化を再現(予言)できたか、あるいはできなかつたか、そして一連の計算機シミュレーションが分野を越えて呼んだ反響についてご紹介します。最後にこういった物質構造の計算機シミュレーション(MD)が今どのような方向に発展しつつあるかを概観します。

物性研究所創立35周年記行事について

物性研究所は今年で創立35周年を迎えました。これを記念して下記のように短期研究会としての記念シンポジウムと一般公開を計画しています。多数の方々のご参加をお待ちしております。

1. 記念シンポジウム（短期研究会）「物性科学の将来」

日 時 平成4年12月3日(木) 午前10時－午後5時30分

場 所 はあといん乃木坂 (健保会館)

地下鉄千代田線乃木坂駅上

プログラム

10:00	はじめに	所長
10:10	有機物質 — 物性物理の新しい舞台 —	十倉 好紀 (東大理)
11:10	無機材料の将来展望	柳田 博明 (東大工)
12:10 — 13:30	昼 休 み	
13:30	メゾスコピック系の物理学	川畠 有郷 (学習院大理)
14:30 — 14:45	コーヒーブレーク	
14:45	ソフトマテリアルの相転移とパターン形成	川崎 恭治 (九大理)
15:45	地球の起源と進化における気相—液相—固相 相変化の役割 — 実験的アプローチ	久城 育夫 (東大理)
16:45	コメント及び討論	

2. 一般公開

日 時 平成4年12月4日(金)・5日(土) 午前10時30分－午後4時

所内一般公開

○ 研究室公開

超強磁場、極限レーザー、表面物性、超低温物性、超高圧、軌道放射物性、中性子回折物性、凝縮系物性、新物質開発、理論、共通実験室の各研究室、実験室の研究成果や研究設備を公開します。

○ 特別企画

物性研究の内容や面白さを専門外の人々に紹介するため、いろいろな実験などを実際のデモンストレーションで示します。

- ・トンネル顕微鏡で見る原子
- ・物質中を進むレーザー光
- ・計算機シミュレーション
- ・目で見る超流動
- ・超強磁場の世界
- ・体験しよう物性実験

○ 科学映画上映

「極限の世界」（上映時刻 10:30, 14:30）

「東京大学物性研究所」（上映時刻 11:30, 15:30）

場 所 物性研究所Q棟1階講義室

上映時間はいずれも約30分

○ 物性科学入門教室

物性研究の専門家でない人々のための分かりやすい入門的講義を行います。

12月4日(金) 13:30-14:30

「レーザーの原理と応用」 黒田 寛人 所員

12月5日(土) 13:30-14:30

「高温超伝導の不思議」 家 泰弘 所員

場 所 物性研究所Q棟1階講義室

詳しくは各研究機関にお配りする公開の案内やポスター、また当日会場でお渡しするプログラムをご覧ください。

また創立35周年を記念して下記のような「物性科学事典」の編纂を計画しております。物性科学のみを扱った事典の刊行は世界でも初の試みであります。最近進歩の著しい物性の分野における新しい概念や、重要な基礎的事項、応用との関連などを分かりやすく解説し、広く役に立つ事典をつくることを目指しております。

物性研究所編 「物性科学事典」

執 筆 物性研究所所員、O B、所外の物性研究者、専門家による

刊行予定日 1995年4月

菊版・上製本・本文1000頁を予定

発 行 東京書籍(株)

物性研ニュース

東京大学物性研究所の助手公募の通知

下記により助手の公募をいたします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

1. 研究部門名等及び公募人員数

理論部門 高橋（實）研究室 助手 1名

2. 研究内容

物性理論

3. 応募資格

修士課程修了、またはこれと同等以上の能力をもつ人。

4. 任 期

5年以内を原則とする。

5. 公募締切

平成4年11月30日（月）必着

6. 就任時期

決定後なるべく早い時期を希望する。

7. 提出書類

(イ) 推薦の場合

- 推薦書
- 履歴書（略歴で結構ですが、学位名・単位取得のみ・論文提出中等を明示のこと）
- 業績リスト（必ずタイプすること）
- 主な論文の別刷

(ロ) 応募の場合

- 履歴書（学位名・単位取得のみ・論文提出中等を明示のこと）
- 業績リスト（必ずタイプすること）
- 主な論文の別刷
- 所属の長または指導教官等の本人についての意見書（宛先へ直送のこと）

8. 宛 先

〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号

東京大学物性研究所 総務課 人事掛

電話 03(3478)6811 内線5021, 5022

9. 注意事項

理論部門 高橋(實) 研究室助手応募書類在中、又は意見書在中の旨を朱書きし、書留で郵送のこと。

10. 選考方法

東京大学物性研究所教授会で審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留いたします。

平成4年8月28日

東京大学物性研究所長

竹内伸

人 事 異 動

(転 出)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
極限物性部門 超低温物性	助手 福山 寛	4. 9.16	筑波大学助教授物理学系へ

(休職等)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
極限物性部門 表面物性	助手 山田 太郎	4. 9.17	休職期間更新 (4. 12. 31まで)
極限物性部門 超低温物性	技官 田崎 哲郎	4. 9.28	休 職 (4. 11. 30まで)
理論部門	助手 小形 正男	4. 9.29	休職期間更新 (5. 2. 28まで)
理論部門	助手 常次 宏一	4. 10. 1	休 職 (5. 9. 30まで)
理論部門	助手 北 孝文	4. 10. 1	休 職 (5. 9. 30まで)
凝縮系物性部門	教務職員 吉田 美穂子	4. 10. 1	休職期間更新 (5. 8. 30まで)

(採用・転入)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
中性子回折物性部門	助手 今井 正幸	4. 11. 1	採 用
新物質開発部門	助手 長谷川 正	4. 11. 1	名古屋大学助手工学部より

(併任等)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
(客員部門) 極限物性第二部門	助教授 上田一之	4.10.1	本務: 大阪大学助教授工学部 (5.3.31まで)
(客員部門) 極限物性第二部門	非常勤講師 畠 徹	4.10.1	本務: 大阪市立大学講師理学部 (5.3.31まで)
(客員部門) 固体物性部門	教 授 宮谷和雄	4.10.1	本務: 愛媛大学教授教養部 (5.3.31まで)
(客員部門) 固体物性部門	助教授 菊地昌枝	4.10.1	本務: 東北大学助教授金属材料研究所 (5.3.31まで)

物性研究所協議会委員名簿

平成4年9月1日現在

所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
東北大(理)	教 授	遠藤 康夫(再)	H 4.9.1 ~ H 6.8.31	物 研 連
阪 大(工)	"	興地 斐男	"	"
慶應大(理工)	"	川村 清	"	"
東 大(理)	"	小林 俊一	"	"
阪大(基礎工)	"	張 紀久夫	"	"
京 大(理)	"	廣田 裕(再)	"	化 研 連
東北大(金研)	"	鈴木 謙爾(再)	"	東北大・金研
高エネルギー物理学研究所	"	岩崎 博(再)	"	高 工 研
東 大(工)	"	藤原 毅夫	"	東 大・工
東 大(理)	"	鈴木 増雄(再)	"	東 大・理
"	"	井野 正三(再)	"	"
"	"	近藤 保(再)	"	"
分子科学研究所	"	丸山 有成	"	分 子 研
京 大(基研)	"	長岡 洋介(再)	"	京 大・基 研
東大(物性研)	"	松岡 正浩(再)	"	所員会・所内委員
"	"	村田 好正(再)	"	"
"	"	安岡 弘志(再)	"	"
"	"	小谷 章雄(再)	"	"
東 大(工)	学部長	岡村 弘之		官職指定委員
" (理)	"	久城 育夫		"
" (核研)	所 長	山崎 敏光		"
" (事務局)	局 長	佐藤 次郎		"

平成 4 年度 後期 短期研究会一覧

研究会名	開催期日	参 予 定 人 員	提 案 者
物性研究に於ける高エネルギー分光：新しい展開	11月10日 11月11日 (2日間) 10:00~	50名 (20名)	○菅 滋 正 (阪大・基礎工) 藤森 淳 (東大・理) 柿崎 明人 (東大・物性研) 佐藤 繁 (東北大・理) 国府田 隆夫 (東大・工)
物性科学の将来	12月 3日 (1日間) 10:00~	100名 (20名)	○寺倉 清之 (東大・物性研) 家泰 弘 (東大・物性研) 三浦 登 (東大・物性研) 村田 好正 (東大・物性研) 八木 健彦 (東大・物性研)
電子励起が誘起する原子移動の物理機構	1月 28日 1月 29日 (2日間) 13:00~	50名 (20名)	○篠塚 雄三 (山口大・工) 吉田 博 (東北大・理) 前田 康二 (東大・工) 末元 徹 (東大・物性研) 谷村 克己 (名大・理) 田口 常正 (阪大・工)

平成4年度 後期 外来研究員一覧

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東海大 (工) 教 授	清瀬量平	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (月1日)	大出力レーザーによるX線レーザーの研究	黒田
京大 (理) 助教授	西嶋光昭	10/29 ~ 10/30 3/5 ~ 3/6	金属表面に吸着した分子のダイナミクス	村田
職業訓練大 助教授	窪田政一	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	表面相転移	"
東北大 (工) 教 授	板谷謹悟	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊3日・2回)	金属表面での電気化学的金属イオンの析出に関する研究	田中
慶應大 (理工) 教 授	伊藤正時	10/1 ~ 12/31 上記期間中 (月2日)	合金表面の電気化学と表面構造に関する研究	"
金沢大 (理) 助教授	鈴木治彦	11/16 ~ 11/21 12/14 ~ 12/19	金属中の核スピン秩序	石本
北教大 (教 育) 教 授	高柳 滋	10/19 ~ 10/31	低温高圧下における比熱測定装置の開発	毛利
奈良女子大 (理) 助 手	松川 宏	11/9 ~ 11/14 1/11 ~ 1/16	酸化物超伝導体の高圧効果	"
東邦大 (理) 教 授	小林速男	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	分子性電気導体の合成と評価	加藤
北大 (工) 助教授	毛利哲夫	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊3日・2回)	合金状態図の第一原理計算	寺倉

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
奈良県立医大 助 教 授	赤 井 久 純	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・2回)	電子論と分子動力学の結合	寺 倉
姫路工大 (理) 助 教 授	石 井 靖	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・2回)	強相関系の電子状態	"
金属材料技術研究所 主任研究員	小 口 多美夫	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	電子状態計算手法の開発	"
東 北 大 (理) 助 教 授	萱 沼 洋 輔	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・2回)	内殻励起二次量子過程の理論	小 谷
筑 波 大 (物理学) 助 教 授	梁 成 吉	10/13、10/27	1次元量子臨界現象	甲 元
京 大 (基 研) 教 授	静 谷 謙 一	10/ 5 ~ 10/ 7	量子ホール効果とゲージ理論	"
岡 山 大 (理) 助 教 授	町 田 一 成	12/14 ~ 12/17 2/15 ~ 2/18	低次元導体における磁場効果	"
姫路工大 (理) 助 教 授	長谷川 泰 正	2/15 ~ 2/18 3/ 8 ~ 3/11	周期ポテンシャル中の電子に対する 磁場効果	"
東 北 大 (理) 教 授	佐 藤 繁	11/ 5 ~ 11/ 6 2/22 ~ 2/23	アンジュレータ放射光を利用した物 性研究	S O R 石 井
群 馬 大 (教 育) 教 授	菅 原 英 直	11/ 5 ~ 11/ 6 2/22 ~ 2/23	"	"
東 大 (核 研) 助 手	武 藤 正 文	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 1 日)	高輝度光源計画における加速器電磁 石の設計	S O R 神 谷

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
広島大 (理) 助 手	飛 山 真 理	11/ 9 ~ 11/10 1/21 ~ 1/22	電子入射器(高輝度光源計画)の設計	S O R 神 谷
高工研 助 教 授	伊 澤 正 陽	11/ 9 ~ 11/10 1/21 ~ 1/22	高輝度光源計画用高周波加速空洞の開発に関する研究	"
高工研 助 教 授	桂 共太郎	11/ 9 ~ 11/10 1/21 ~ 1/22	高速ビーム位置検出システムの開発に関する研究	"
高工研 助 手	家 入 孝 夫	11/ 9 ~ 11/10 1/21 ~ 1/22	ビーム計測システムの開発研究	"
高工研 助 手	中 村 典 雄	11/ 9 ~ 11/10 1/21 ~ 1/22	高輝度放射光リングにおけるビーム不安定性の研究	"
高工研 助 手	堀 洋一郎	11/ 9 ~ 11/10 1/21 ~ 1/22	高輝度光源計画の加速器における真空システムの設計	"
分子研 助 教 授	磯 山 悟 朗	11/ 9 ~ 11/10 1/21 ~ 1/22	アンジュレータの基本設計	"
理化学研究所 研究員	安 東 愛之輔	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月1日)	高輝度光源計画のリング設計及び軌道解析	"
理化学研究所 研究員	田 中 均	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	直線及び円偏振アンジュレータが電子ビームに与える影響についての研究	"
東北大 (理) 助 教 授	鈴 木 章 二	10/27 ~ 10/28 12/ 2 ~ 12/ 3	スピニ分解低速電子線回折による表面磁性の研究	S O R 柿 崎
阪 大 (基礎工) 教 授	菅 滋 正	10/29 ~ 10/30 12/17 ~ 12/18	"	"

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
群馬大 (教育) 助教授	奥沢 誠	11/26 ~ 11/27 2/22 ~ 2/23	高輝度放射光を利用する分光実験装置の基本設計	S O R 柿崎
東 大 (理) 助教授	藤森 淳	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (3日間)	"	"
名 大 (理) 教 授	関 一 彦	11/26 ~ 11/27 2/22 ~ 2/23	"	"
京 大 (工) 助教授	小杉信博	11/26 ~ 11/27 2/22 ~ 2/23	"	"
阪 大 (基礎工) 助教授	大門 寛	11/26 ~ 11/27 2/22 ~ 2/23	"	"
神戸大 (理) 教 授	難波 孝夫	11/26 ~ 11/27 2/22 ~ 2/23	"	"
高工研 教 授	前沢 秀樹	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (3日間)	アンジュレータ放射を利用する分光光学系の設計	"
高工研 教 授	宮原恒昱	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (3日間)	"	"
高工研 助教授	柳下 明	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (3日間)	"	"
東北大 (科 研) 助教授	服部 武志	11/16 ~ 11/17 1/28 ~ 1/29	ビームラインの整備	S O R 辛

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東北大 (理) 教 授	後藤武生	1/11 ~ 1/15	半導体微結晶における励起子の強磁場効果	三浦
東北大 (理) M. C. 2	田中仁	1/11 ~ 1/15	"	"
埼玉大 (工) 教 授	山田興治	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (週2日)	単結晶SiC極薄膜の磁気フォノン共鳴	"
埼玉大 (工) 助 手	鎌田憲彦	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (週2日)	"	"
埼玉大 (理工学) D. C. 2	府瀬川和宏	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (週2日)	"	"
埼玉大 (理工学) D. C. 2	二川英樹	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (週2日)	"	"
埼玉大 (理工学) M. C. 2	小綿明	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (週2日)	"	"
東 大 (先端研) 教 授	榎裕之	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (月3日)	強磁場を用いた量子マイクロ構造の電気的・光学的特性の検証	"
東 大 (先端研) 助 手	永宗靖	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (月3日)	"	"
東 大 (生研) 助 手	松末俊夫	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (月3日)	"	"
東 大 (生研) 技 官	野田武司	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (月3日)	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東 大 (工) D. C. 2	野 口 裕 泰	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	強磁場を用いた量子マイクロ構造の 電気的・光学的特性の検証	三 浦
東 大 (工) M. C. 2	大 野 裕 三	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	"	"
山 梨 大 (教 育) 助 手	渡 辺 勝 儀	2/15 ~ 2/18	超強磁場下におけるBiI ₃ 薄膜結晶の バンド端励起子の磁気光効果	"
電 総 研 主任研究員	安 藤 功 児	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 4 日)	半磁性半導体超格子構造の磁気光学 的研究	"
電 総 研 技 官	秋 永 広 幸	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 4 日)	"	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 主任研究員	中 尾 公 一	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	パルス超強磁場による高温超電導体 のB _{c2} 測定	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 研究員	矢 加 部 久 孝	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	"	"
東 北 大 (工) 教 授	深 道 和 明	11/24 ~ 11/26	構造不規則型遍歴電子スピングラス の磁性	後 藤
東 北 大 (工) 助 教 授	渴 岡 教 行	12/ 8 ~ 12/10	メカニカルアロイングで作製された Fe系アモルファス合金の磁性	"
東 北 大 (工) D. C. 3	蔣 德 煉	12/ 1 ~ 12/ 4	20面体クラスターを有する鉄系ア モルファスの磁性	"
東 北 大 (工) D. C. 2	村 田 和 広	12/14 ~ 12/16	Co系ラーベス相化合物の強磁場物性	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 貢
東北大 (工) D. C. 1	服部 靖匡	12/17 ~ 12/19	希土類-鉛系化合物の磁性と超伝導	後藤
東北大 (工) M. C. 2	大橋伸夫	1/21 ~ 1/23	20面体クラスターを有するコバルト系アモルファスの磁性	"
東北大 (工) M. C. 2	角田 均	1/18 ~ 1/20	Co系アモルファス合金の遍歴電子スピングラス	"
東北大 (工) M. C. 2	松永 温	1/25 ~ 1/27	Fe系アモルファス合金スピングラスの磁気体積効果	"
東北大 (工) M. C. 1	高田 良久	1/28 ~ 1/30	希土類-スズ系化合物の磁性と超伝導	"
東北大 (工) M. C. 1	藤田 麻哉	2/15 ~ 2/17	ニッケル系アモルファス合金の磁性とスピノのゆらぎ	"
お茶の水女子大 (理) 教 授	伊藤 厚子	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (14日)	絶縁体スピングラス系の磁化測定	"
お茶の水女子大 (人間文化) D. C. 1	邸 乃力	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (14日)	"	"
お茶の水女子大 (理) M. C. 2	岩井 圭子	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (14日)	"	"
お茶の水女子大 (理) M. C. 2	大山 千由紀	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (14日)	"	"
お茶の水女子大 (理) M. C. 1	東方 綾	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (14日)	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
お茶の水女子大 (理) M. C. 1	深 谷 敦 子	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (14日)	絶縁体スピングラス系の磁化測定	後 藤
福 井 大 (工) 助 教 授	網 代 芳 民	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (3泊 4日・1回)	低次元格子磁性体における磁場中相 転位	"
福 井 大 (工) M. C. 2	栗 山 英 明	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (3泊 4日・1回)	"	"
福 井 大 (工) M. C. 1	浅 野 貴 行	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (3泊 4日・1回)	"	"
京 大 (工) 助 教 授	和 田 裕 文	12/ 7 ~ 12/12	E u 化合物の強磁場磁化過程	"
京 大 (工) M. C. 2	前 田 尚 史	12/ 7 ~ 12/12	"	"
京 大 (工) M. C. 1	八 重 横 利 武	12/ 7 ~ 12/12	"	"
東京医大 講 師	大 岩 潔	11/18 ~ 11/21 12/ 9 ~ 12/12	ラーベス相金属間化合物のメタ磁性	"
横浜国大 (工) 助 手	武 田 淳	10/19 ~ 10/23 12/ 7 ~ 12/11	フォトクロミック化合物フルキドの 電子状態とその緩和過程の研究	松 岡
横浜国大 (工) M. C. 1	貝 沼 研 吾	10/19 ~ 10/23 12/ 7 ~ 12/11	"	"
京 大 (理) 教 授	加 藤 利 三	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・1回)	NaNO ₂ における励起子の緩和	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
京 大 (理) 助 手	芦 田 昌 明	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	NaNO ₂ における励起子の緩和	松 岡
京 大 (理) M. C. 1	十 河 誠 治	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
東 海 大 (工) M. C. 1	織 茂 聰	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週4日)	大出力レーザーによるX線レーザーの研究	黒 田
横浜国大 (工) 教 授	栗 田 進	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	低次元物質における非線型素励起状態の研究	末 元
横浜国大 (工) M. C. 1	岡 田 充	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	"	"
宇都宮大 (教養) 助 教 授	江 川 千佳司	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (日帰り 2回)	超格子表面構造とその反応性に関する研究	村 田
山梨大 (教育) 教 授	川 村 隆 明	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	多重散乱法による表面構造の決定	"
阪 大 (工) D. C. 3	高 野 曜 己	3/ 8 ~ 3/19	金属表面上のガス吸着の動的過程の研究	"
北 大 (理) 教 授	山 岸 眞 彦	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・1回)	金属錯体LB膜のXPS による表面構造の解析	田 中
北 大 (触媒セ) 助 教 授	柄 原 浩	11/30 ~ 12/ 5	アルカリ金属修飾表面での化学反応	"
北 大 (理) D. C. 1	島 田 瓦	11/30 ~ 12/ 5	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
分子研 助 手	水野 清義	11/30～12/5	アルカリ金属修飾表面での化学反応	田 中
筑波大 (物質工学) 講 師	中村 潤児	11/18～11/30	光電子分光法による金属単結晶表面 での反応過程に関する研究	"
阪 大 (産 研) 教 授	岩崎 裕	11/17～11/18	固液界面における原子的プロセス	"
岡山大 (自然科学) 助 手	黒田 泰重	11/30～12/19	酸化亜鉛表面における水の二次元凝 縮	"
東北大 (金 研) 助 教 授	槇詰 富博	11/9～11/11	低温STMによる半導体の表面構造 研究	小 森
東北大 (理) D. C. 3	花栗 久実	11/9～11/11	"	"
東北大 (理) M. C. 1	岸本 次郎	11/9～11/11	"	"
東北大 (理) M. C. 1	茶谷 日出男	11/9～11/11	"	"
東北大 (金 研) 特別研究員	王 向 東	11/9～11/11 12/14～12/16 1/18～1/20	"	"
北 大 (工) 助 手	丹田 聰	10/1～10/10	2次元系の超伝導-絶縁体転移	石 本
東 大 (教 養) 助 教 授	和田 信雄	10/1～3/31 上記期間中 (週3日)	Restricted Geometry における量子 凝縮	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
金沢大 (理) M. C. 2	小池 良浩	11/ 9 ~ 11/16	S _c の核スピン・オーダーの研究	石本
金沢大 (理) M. C. 2	田所 三徳	11/ 9 ~ 11/16	"	"
京 大 (理) 教 授	石黒 武彦	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・1回)	低次元金属の超低温下電気伝導	"
京 大 (理) D. C. 2	伊東 裕	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・1回)	"	"
千葉大 (教 育) 助 教 授	東崎 健一	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 2日)	純金属の低温熱伝導の研究	久保田
熊本大 (理) 助 教 授	岡田 邦英	12/ 7 ~ 12/12	核スピンの偏極状態における核磁気共鳴	"
筑波大 (理工学) M. C. 2	伊藤 新一郎	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (日帰り 2回)	液体ヘリウム上 2次元電子系の研究	河野
筑波大 (物理学) M. C. 1	石田 一貴	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (日帰り 2回)	"	"
筑波大 (理工学) M. C. 1	小室 拓	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (日帰り 2回)	第3音波を用いた準周期格子の研究	"
筑波大 (理工学) M. C. 1	鈴木 伸之	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (日帰り 2回)	低温蒸着水素膜での二次元電子系	"
北大 (理) 教 授	三本木 孝	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (6泊 7日・1回)	二次元化合物HfTe ₂ の高圧X線回折	毛利

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
北 大 (理) M. C. 1	青 木 康 祐	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (6泊 7日・1回)	二次元化合物HfTe ₂ の高圧X線回折	毛 利
東 北 大 (教養) 助 教 授	佐 藤 正 樹	1/25 ~ 1/29	NiAs型化合物の高圧下の構造解析	"
東 大 (工) 助 教 授	内 田 慎 一	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (3週間)	高温超伝導体を中心とした酸化物における抵抗率の圧力依存性	"
東 大 (工) 助 手	永 崎 洋	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (3週間)	"	"
東 大 (工) D. C. 3	伊 藤 利 充	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (3週間)	"	"
東 大 (工) M. C. 1	金 枝 雅 人	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (3週間)	"	"
東 大 (理) 助 教 授	十 倉 好 紀	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月2日)	Ti酸化物結晶の高圧物性	"
信 州 大 (理) 教 授	永 井 寛 之	11/30 ~ 12/ 4	ThMn ₁₂ 型金属間化合物の電気抵抗の圧力変化	"
信 州 大 (理) 教 授	永 井 寛 之	2/ 1 ~ 2/ 5	ThMn ₁₂ 型金属間化合物の高圧下における電気抵抗の温度変化	"
信 州 大 (理) 助 手	天 児 寧	11/30 ~ 12/ 4	金属間化合物RMn ₁₂ の高圧下における電気抵抗の温度変化	"
信 州 大 (理) 助 手	天 児 寧	2/ 1 ~ 2/ 5	金属間化合物RMn ₁₂ の電気抵抗の圧力変化	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
京 大 (理) 助 教 授	小 島 憲 道	12/ 7 ~ 12/12	ペロブスカイト型混合原子価錯体 $MAuX_3$ ($M=Rb, Cs; X=Cl, Br, I$) および その混晶系の低温高圧下における伝導物性の研究	毛 利
京 大 (理) 助 手	吉 村 一 良	10/12 ~ 10/19	高温超伝導体における弱結合効果の 圧力依存性	"
京 大 (理) M. C. 2	澤 村 隆 重	10/12 ~ 10/19	"	"
北海道東海大 教 授	四 方 周 輔	3/14 ~ 3/26	高圧下における酸化物超伝導体の輸送現象	"
北海道東海大 助 教 授	印 東 道 子	12/21 ~ 12/25	メスバウアーフィルタ法による先史土器技術の復元	"
青山学院大 (理 工) 教 授	秋 光 純	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	高圧下での新物質の合成	"
青山学院大 (理 工) 助 手	富 本 晃 吉	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	"	"
青山学院大 (理 工) M. C. 1	高 岡 岳 彦	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	"	"
電 総 研 研 究 員	伊 賀 文 俊	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (3週間)	希土類近藤物質及び遷移金属化合物の圧力効果	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 主任研究員	安 達 成 司	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	銅酸化物の超高圧合成	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 研究員	井 澤 和 幸	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
国際超電導産業 技術研究 センター 超電導工学研 究 員	小 菅 道 和	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週2日)	高圧下の酸化物超伝導体の研究	毛 利
国際超電導産業 技術研究 センター 超電導工学研 究 員	渡 辺 宣 朗	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週2日)	"	"
北 大 (理) 助 教 授	河 村 雄 行	10/ 5 ~ 10/12	アルカリケイ酸塩融体の高温高圧X 線解析	八 木
北 大 (理) 助 手	川 崎 晋 司	2/ 1 ~ 2/ 7	"	"
北 大 (理) D. C. 2	澤 口 直 哉	12/ 7 ~ 12/14	"	"
北 大 (理) M. C. 2	舟 越 賢 一	11/ 2 ~ 11/ 9	"	"
室蘭工大 (工) 教 授	城 谷 一 民	11/ 1 ~ 11/11	金属リン化物超伝導体の合成と電子 物性	"
室蘭工大 (工) M. C. 1	安 達 隆 文	11/ 1 ~ 11/11	"	"
東北大 (金研) 教 授	小 松 啓	12/ 1 ~ 12/ 4	高圧力下での溶液相からの結晶成長 過程の観察	"
東北大 (金研) 助 手	宮 下 哲	12/ 1 ~ 12/ 4	"	"
東北大 (理) M. C. 1	鈴 木 良 尚	12/ 1 ~ 12/ 4	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
お茶の水女子大 (理) 助 教 授	浜 谷 望	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週2日)	MnF ₂ 高圧相の結晶構造の決定	八 木
阪 大 (教 養) 助 手	大 高 理	11/ 9 ~ 11/14	ジルコニア高圧相転移のその場観察	"
愛 媛 大 (理) 助 教 授	入 船 徹 男	3/12 ~ 3/20	超高压下でのケイ酸塩多成分系相平衡	"
愛 媛 大 (理) M. C. 2	金 本 征 代	10/10 ~ 10/20	"	"
九 大 (理) 助 教 授	松 井 正 典	10/12 ~ 10/16	マントル鉱物の高温高圧下における構造と物性	"
九 大 (理) M. C. 1	武 村 英 樹	10/12 ~ 10/16	"	"
学習院大 (理) 助 手	鈴 木 敏 弘	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	高圧高温下における金属とケイ酸塩の反応	"
学習院大 (理) M. C. 2	糀 谷 浩	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	Mg-Fe 硅酸塩鉱物の高圧合成	"
東 海 大 (工) 教 授	坂 田 浩 伸	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	電気伝導性ガラスの伝導性に及ぼす超高压の効果	"
岐 阜 大 (工) 助 教 授	松 下 栄 子	12/16 ~ 12/18	誘電体の電子物性に関する研究	藤 井
自治医大 教 授	青 野 修	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (1泊 2日・1回)	膜の諸性質の理論	伊 藤

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東 大 (工) 助 教 授	前 田 康 二	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	非金属結晶中の転位の運動	竹 内
青山学院大 (理 工) 助 手	塩 谷 百 合	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	置換型不規則二元合金中の電子状態 の理論計算	"
東京理科大 (理) 教 授	津 田 惟 雄	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 1 日)	準結晶の物性	"
東京理科大 (理) D. C. 1	吉 岡 明 紀	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	"	"
東京理科大 (理) M. C. 2	秋 山 博 文	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 5 日)	"	"
東京理科大 (理) M. C. 2	越 川 尚 清	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 5 日)	"	"
東京理科大 (理) 教 授	津 田 惟 雄	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 1 日)	高温超伝導体のトンネル効果	"
東京理科大 (理) 助 手	嶋 田 大 介	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 2 日)	"	"
東京理科大 (理) 助 手	宮 川 宣 明	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 2 日)	"	"
東京理科大 (理) M. C. 1	沼 崎 宣 子	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	"	"
東 洋 大 (工) 講 師	渋 谷 忠 治	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	準結晶の電気伝導	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
日 大 (文 理) 助 手	大 川 哲 植	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	準結晶の構造と物性	竹 内
東 北 大 (理) 助 手	高 木 滋	11/24 ~ 11/28	重い電子系のNMRによる研究	安 岡
東 北 大 (理) M. C. 2	鈴 木 博 之	11/24 ~ 11/28	"	"
東 北 大 (金 研) 助 手	高 梨 弘 育	11/16 ~ 11/20	Co/Cu系人工格子のNMRによる研究	"
埼 玉 大 (教 育) 教 授	津 田 俊 信	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	酸化物高温超伝導体およびその関連物質の核磁気共鳴	"
千 葉 大 (理) 助 教 授	伊 藤 正 行	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	遷移金属酸化物のNMR	"
信 州 大 (理) 教 授	永 井 寛 之	10/ 5 ~ 10/ 9	CeNiAl ₄ のNMR	"
京 大 (工) 助 手	中 村 裕 之	2/ 1 ~ 2/ 8	³ He 冷凍機を用いたNMR	"
京 大 (工) M. C. 1	上 西 朗 弘	2/ 1 ~ 2/ 8	"	"
京 大 (理) D. C. 1	加 藤 将 樹	10/12 ~ 10/19	Y ₂ Ba ₄ Cu ₇ O _{15-y} におけるCuのNQR/NMR	"
京 大 (理) M. C. 2	大 村 朋 彦	10/12 ~ 10/19	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
阪 大 (基礎工) 助 教 授	那 須 三 郎	12/14 ~ 12/18	鉄中炭素の電子状態	安 岡
徳 島 大 (工) 助 教 授	大 野 隆	3/ 2 ~ 3/31	超伝導酸化物および関連物質のNQR・ NMR	"
東京医大 講 師	大 岩 潔	11/25 ~ 11/28 12/16 ~ 12/19	強磁性ホイスラー合金における構造 相転位とNMR	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 主任研究員	町 敬 人	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 3 日)	NMR による酸化物高温超伝導体の研 究	"
室蘭工大 (工) M. C. 2	市 橋 信 春	11/ 1 ~ 11/11	金属リン化物超伝導体の磁性	木 下
慶 應 大 (理 工) 非常勤講師	岩 澤 尚 子	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	ニトロニルニトロキシドラジカル誘 導体の合成と磁性	"
東邦大 (理) 講 師	高 橋 正	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	希土類金属ヨウ化物クラスターの合 成と性質	"
東邦大 (理) M. C. 1	原 沢 薫	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	"	"
山 口 大 (理) 助 教 授	繁 岡 透	12/ 1 ~ 12/ 4	重い電子系CeM ₂ Sn ₂ の物性	石 川
山 口 大 (理) M. C. 2	岸 野 猛	12/ 1 ~ 12/ 4	"	"
愛 媛 大 (教 養) 助 教 授	田 中 寿 郎	3/18 ~ 3/27	カルコゲン化合物の3d正孔が示す磁 性と超伝導性	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
群馬大 (工) 助教授	伊藤和男	1/25 ~ 1/28	シリコン量子細線の低温電気伝導の研究	家
東大 (理) 助教授	十倉好紀	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (月2日)	Ti酸化物結晶のホール係数	"
東大 (先端研) 教 授	榎裕之	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (月3日)	結合量子井戸構造における電子波モードの制御とその電気伝導に関する研究	"
東大 (先端研) 助 手	永宗靖	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (月3日)	"	"
東大 (生研) 助 手	松末俊夫	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (月3日)	"	"
東大 (生研) 技 官	野田武司	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (月2日)	"	"
東大 (工) D. C. 2	野口裕泰	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (月3日)	"	"
東大 (工) M. C. 2	大野裕三	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (月3日)	"	"
東大 (生研) 助 手	斎藤敏夫	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (月4日)	半導体低次元電子系の電気伝導特性に関する研究	"
熊本大 (教養) 助教授	巨海玄道	3/24 ~ 3/28	重い電子系物質 CePtSi ₂ の磁気抵抗効果	"
熊本大 (自然科学) D. C. 1	加賀山朋子	3/24 ~ 3/28	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
熊本大 (理) M. C. 1	西 村 和 高	3/24 ~ 3/28	重い電子系物質 CePtSi ₂ の磁気抵抗効果	家
富山県立大 (工) 助 手	横 道 治 男	12/14 ~ 12/17	アモルファスシリコンおよびポーラスシリコンにおける電子核二重共鳴	"
東邦大 (理) 教 授	梶 田 晃 示	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	有機伝導体の強磁場下電気伝導	"
東邦大 (理) M. C. 2	尾 白 吏	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	"	"
阪 大 (教養) 教 授	山 中 高 光	11/16 ~ 11/20	大型良質Mg ₂ SiO ₄ 単結晶の育成	武 居
阪 大 (教養) 助 教 授	土 山 明	12/ 7 ~ 12/11	"	"
阪 大 (教養) 助 手	植 田 千 秋	12/ 7 ~ 12/11	"	"
阪 大 (教養) 助 手	永 井 隆 哉	11/16 ~ 11/20	"	"
京 大 (総合人間) 助 教 授	岡 與志男	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・1回)	層状構造をもつバナジウム酸化物の構造と物性	上 田
東 大 (生 研) 助 教 授	七 尾 進	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 2 日)	準結晶合金の構造研究	物 質 開 発
東 大 (生 研) 助 手	渡 邊 康 裕	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 2 日)	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
信 州 大 (理) M. C. 2	宇 井 範 彦	11/30 ~ 12/ 5	(Mn, R)Sbの磁化測定(R=希土類元素)	電磁気 測 定
信 州 大 (理) M. C. 1	荻 原 富士弥	11/30 ~ 12/ 5	(R, La)Mn ₂ の磁化測定 (R=希土類元 素)	"
広 島 大 (総 合) 助 教 授	高 畠 敏 郎	11/ 9 ~ 11/12	CeNi _{1-x} Co _x Sn系の半導体から価数搖 動体系への遷移	"
広 島 大 (生物圏) D. C. 1	前 田 康 臣	11/ 9 ~ 11/12	"	"
広 島 大 (生物圏) M. C. 2	中 本 剛	11/ 9 ~ 11/12	"	"
龍 谷 大 (理 工) 助 教 授	西 原 弘 訓	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	超伝導体粉末の磁化率とフォノンエ コー	"
長 野 高 専 助 教 授	藤 原 勝 幸	11/25 ~ 11/27	酸化物超伝導体YBCOの磁性	"
高 松 高 専 助 教 授	明 神 教 久	2/ 8 ~ 2/13	希土類化合物R ₂ Co ₁₄ B の磁性研究	"
北 大 (触媒セ) 教 授	早 川 和 延	1/18 ~ 1/22	電子スピン計測用Au薄膜を透過した 電子線プロファイルの測定	電 子 顯微鏡
東 大 (工) 講 師	宮 沢 薫 一	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 2 日)	セラミック材料の高分解能観察	"
長 崎 大 (教 養) 教 授	岩 永 浩	10/12 ~ 10/15 11/16 ~ 11/19 12/ 7 ~ 12/12 3/23 ~ 3/30	アルミナファイバー中の欠陥の電顕 観察	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
広 島 大 (総 合) 助 教 授	高 畠 敏 郎	10/19 ~ 10/22	ウラン三元化合物の結晶構造解析	X 線 測 定
北 大 (工) 助 手	滝 沢 聰	12/ 7 ~ 12/11	第一原理電子論計算を用いた合金相 安定性の研究	寺 倉
東 工 大 (総合理工学) 助 手	神 藤 欣 一	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	Al基合金の機械的性質に関する第一 原理計算	"
静 岡 大 (工業短大) 教 授	浅 田 寿 生	10/22	金属人工格子の電子状態	"
静 岡 大 (工業短大) 助 教 授	星 野 敏 春	10/22 ~ 10/23	局在軌道法によるSiC-LSD計算方法	"
九 大 (理) D. C. 3	井 上 耕一郎	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (1週間)	Si(001) 清浄表面ステップの構造の 研究	"
無期材質研 究 員	小 林 一 昭	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	第一原理分子動力学法による新しい 物質の構造安定性と電子状態の研究	"
東 北 大 (理) D. C. 3	清 野 泰 宏	12/ 1 ~ 12/ 5	遷移金属酸化物の高エネルギー分光 の理論	小 谷
岡 山 大 (理) 助 教 授	原 田 勲	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (3泊 4日・1回)	磁性体の光学的性質	"
大阪府立大 (工) 助 手	田 中 智	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	f 及び d 電子系のX線発光スペクト ルの理論	"
東 北 大 (教 養) 教 授	安 原 洋	11/19 ~ 11/20	バンド計算のための交換・相関ポテ ンシャルの研究	高 田

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東北大 (教養) 助手	西野友年	12/10 ~ 12/11	電子相関に対するポテンシャルの影響	高田
東北大 (教養) 助手	山上浩志	12/3 ~ 12/4	有効ポテンシャル展開法による原子 やクラスターの電子状態の計算	"
日大 (文理) 講師	平本尚	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	準周期的系の電子状態	甲元
埼玉大 (教養) 助教授	飛田和男	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (月2日)	相関の強い量子多体系の数値的研究	今田
東京理科大 (理) 助手	諏訪雄二	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	分子動力学法による四角酸分子骨格 のシミュレーション	常行
信州大 (理) 教授	勝木渥	2/15 ~ 2/16	物性物理学史	外来委
日大 (理工) 教授	西尾成子	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	"	"
日大 (理工) 助手	植松英穂	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東京理科大 (理) 教 授	I-1 三須 明	11/2 ~ 11/14	反射型円偏光子を用いた希土類鉄ガーネットの磁気円二色スペクトル	S O R
東京理科大 (理) 助 手	小林 正明	11/2 ~ 11/14	"	"
東京理科大 (理) M. C. 2	鈴木 基寛	11/2 ~ 11/14	"	"
東京理科大 (理) M. C. 2	三井 千絵	11/2 ~ 11/14	"	"
東京理科大 (理) M. C. 2	八幡 義章	11/2 ~ 11/14	"	"
東京理科大 (理) M. C. 1	半村 清孝	11/2 ~ 11/14	"	"
東 大 (工) 教 授	I-2 国府田 隆夫	11/24 ~ 11/28	フーレン単結晶の真空紫外反射スペクトル	"
東 大 (工) 講 師	岩佐 義宏	11/24 ~ 11/28	"	"
東 大 (工) 助 手	長谷川 達生	11/24 ~ 11/28	"	"
東 大 (工) M. C. 2	岸田 英夫	11/24 ~ 11/28	"	"
東 大 (工) M. C. 2	安田 剛規	11/24 ~ 11/28	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 貢
早稲田大 (理 工) 教 授	I - 3 大 木 義 路	11/30 ~ 12/ 5	SiO ₂ 薄膜の真空紫外域における光吸収の測定	S O R
早稲田大 (理 工) 助 教 授	宗 田 孝 之	11/30 ~ 12/ 5	"	"
早稲田大 (理 工) 助 手	西 川 宏 之	11/30 ~ 12/ 5	"	"
早稲田大 (理 工) D. C. 2	石 井 啓 介	11/30 ~ 12/ 5	"	"
早稲田大 (理 工) M. C. 1	小 野 正 敏	11/30 ~ 12/ 5	"	"
早稲田大 (理 工) M. C. 1	横 川 知 行	11/30 ~ 12/ 5	"	"
東北大 (科 研) 助 教 授	I - 4 服 部 武 志	12/ 7 ~ 12/19	β-アルミナの紫外線吸収スペクトル	"
東北大 (科 研) 技 官	千 葉 裕 輝	12/ 7 ~ 12/19	"	"
東北大 (理) D. C. 3	河 原 田 至	12/ 7 ~ 12/19	"	"
東北大 (理) M. C. 2	八 嶋 俊 一	12/ 7 ~ 12/19	"	"
東 大 (教 養) 助 手	I - 5 江 尻 有 郷	1/25 ~ 1/29 2/ 1 ~ 2/ 5	I - VII化合物量子井戸構造の光物性	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東 大 (教 養) 助 手	I - 5 波田野 彰	1/25 ~ 1/29 2/ 1 ~ 2/ 5	I - VII化合物量子井戸構造の光物性	S O R
神 戸 大 (発達科学) 助 教 授	中 川 和 道	1/25 ~ 2/ 6	"	"
東京農工大 (工) 教 授	I - 6 越 田 信 義	2/ 8 ~ 2/20	ポーラスシリコンの電子構造の研究	"
東京農工大 (工) 助 手	小 山 秀 樹	2/ 8 ~ 2/20	"	"
東京農工大 (工) M. C. 2	皆 川 康 幸	2/ 8 ~ 2/20	"	"
東京農工大 (工) M. C. 1	伴 拓 弥	2/ 8 ~ 2/20	"	"
東京農工大 (工) M. C. 1	山 本 有 子	2/ 8 ~ 2/20	"	"
東 大 (工) 教 授	I - 7 内野倉 國 光	3/ 8 ~ 3/20	高温超伝導体超格子の光学スペクトルと電子状態	"
東 大 (工) 助 手	寺 崎 一 郎	3/ 8 ~ 3/20	"	"
東 大 (工) D. C. 2	塚 田 一 郎	3/ 8 ~ 3/20	"	"
東 大 (工) D. C. 1	芝 内 孝 賢	3/ 8 ~ 3/20	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
高 工 研 教 授	I' - 1 宮 原 恒 昱	11/ 2 ~ 11/ 7	放射光の偏光状態の垂直観測角依存性の直接測定	S O R
総 研 大 D. C. 3	木 村 洋 昭	11/ 2 ~ 11/ 7	"	"
東 北 大 (科 研) 助 教 授	山 本 正 樹	11/ 4 ~ 11/ 7	"	"
東 北 大 (科 研) 助 手	柳 原 美 廣	11/ 4 ~ 11/ 7	"	"
大阪府立大 (工) 教 授	II - 1 会 田 修	11/15 ~ 11/17	共鳴光電子分光によるセリウム化合物の4f電子状態の研究	"
大阪府立大 (工) 助 教 授	市 川 公 一	11/15 ~ 11/22	"	"
大阪府立大 (工) 講 師	曾 田 一 雄	11/17 ~ 11/28	"	"
大阪府立大 (工) 助 手	田 中 智	11/15 ~ 11/18	"	"
大阪府立大 (工) 助 手	田 口 幸 広	11/23 ~ 11/28	"	"
大阪府立大 (工) D. C. 2	梅 原 隆	11/23 ~ 11/28	"	"
大阪府立大 (工) M. C. 2	松 本 雅 美	11/15 ~ 11/28	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
大阪府立大 (工) M. C. 1	II-1 定 田 浩 一	11/15 ~ 11/21	共鳴光電子分光によるセリウム化合物の4f電子状態の研究	S O R
東京農工大 (工) 助 教 授	II-2 須 田 良 幸	11/30 ~ 12/12	光電子分光法による多孔質Siの電子構造に関する研究	"
東京農工大 (工) 教 授	越 田 信 義	11/30 ~ 12/12	"	"
東京農工大 (工) 助 手	小 山 秀 樹	11/30 ~ 12/12	"	"
東京農工大 (工) M. C. 2	皆 川 康 幸	11/30 ~ 12/12	"	"
東京農工大 (工) M. C. 1	伴 拓 弥	11/30 ~ 12/12	"	"
東 大 (理) 教 授	II-3 小 間 篤	12/14 ~ 12/19	光電子分光による絶縁体-半導体ヘテロ界面の研究	"
東 大 (理) 助 教 授	齊 木 幸一朗	12/14 ~ 12/19	"	"
東 大 (理) M. C. 1	西 田 直 史	12/14 ~ 12/19	"	"
広 島 大 (理) 教 授	II-4 谷 口 雅 樹	1/24 ~ 2/ 7	Mn, Fe-CdTe(110) 界面での半磁性半導体形成と電子状態	"
広 島 大 (理) 助 教 授	細 川 伸 也	1/24 ~ 2/ 7	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
広島大 (理) 助 手	II-4 佐藤 仁	1/24 ~ 2/ 7	Mn, Fe-CdTe(110) 界面での半磁性半導体形成と電子状態	S O R
広島大 (理) M. C. 2	八方直久	1/24 ~ 2/ 7	"	"
広島大 (理) M. C. 1	三村 功次郎	1/24 ~ 2/ 7	"	"
広島大 (理) M. C. 1	開 康子	1/24 ~ 2/ 7	"	"
徳山高専 助 教 授	植田 義文	1/24 ~ 2/ 7	"	"
吳高専 講 師	小山 通栄	1/24 ~ 2/ 7	"	"
東北大 (理) 教 授	II-5 佐藤 繁	2/22 ~ 3/ 6	ウラン化合物のU5d-5f共鳴光電子分光	"
東北大 (理) 助 教 授	鈴木 章二	2/22 ~ 3/ 6	"	"
東北大 (理) D. C. 2	江島丈雄	2/22 ~ 3/ 6	"	"
東北大 (理) M. C. 2	工藤 祐治	2/22 ~ 3/ 6	"	"
東北大 (電通研) 助 教 授	II-6 庭野道夫	3/ 8 ~ 3/13	不活性化処理半導体表面の研究	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東北大 (工) M. C. 2	II-6 栗田一成	3/8 ~ 3/13	不活性化処理半導体表面の研究	S O R
東北大 (工) M. C. 1	影山准一	3/8 ~ 3/21	"	"
東北大 (工) M. C. 1	木梨幸治	3/8 ~ 3/21	"	"
国際基督教大 (教養) 講 師	V-1 高倉かほる	1/25 ~ 2/27	真空紫外線による生物影響の分子的 機構	"
国際基督教大 (理学) M. C. 2	藤田栄一郎	1/25 ~ 2/27	"	"
国際基督教大 (理学) M. C. 1	吉田尚美	1/25 ~ 2/27	"	"
北大 (獣医) 助 教 授	桑原幹典	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
総研大 D. C. 2	安藤ひろ美	1/25 ~ 2/27	"	"
総研大 D. C. 2	渡邊立子	1/25 ~ 2/27	"	"
大阪府立大 (研究所) 講 師	恵恒雄	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
奈良県立医大 講 師	岡市協生	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (4泊 5日・1回)	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
奈良県立医大 助 手	V-1 井 原 誠	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (4泊 5日・1回)	真空紫外線による生物影響の分子的 機構	S O R
立 教 大 (理) 教 授	檜 枝 光太郎	1/25 ~ 2/27	"	"
立 教 大 (理) 教 授	松 平 賴 曜	1/25 ~ 2/27	"	"
立 教 大 (理) M. C. 2	梅 澤 直 司	1/25 ~ 2/27	"	"
神奈川大 (理) 研 究 員	峯 岸 安津子	1/25 ~ 2/27	"	"
高 工 研 助 教 授	小 林 克 己	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (1泊 2日・1回)	"	"
基 生 研 助 手	渡 辺 正 勝	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (3泊 4日・1回)	"	"
国際基督教大 (教 養) 教 授	石 川 光 男	1/25 ~ 2/27	"	"

平成5年度前期共同利用の公募について

1. 公募事項 (添付の要項参照)

- (1) 留学研究員 (平成5年4月～平成5年9月実施分)
- (2) 共同利用(一般・S O R) (平成5年4月～平成5年9月実施分)
- (3) 共同利用(中性子) (平成5年4月～平成6年3月実施分)
- (4) 短期研究会 (平成5年4月～平成5年9月実施分)

2. 申請資格 : 国、公、私立及び国、公立研究機関の教官、研究者並びにこれに準ずる者。

3. 申請方法 : (1) 共同利用については、外来研究員申請書を提出のこと。ただし、軌道放射物性研究施設及び中性子散乱実験設備の共同利用については、申請方法が異なるので53～56ページを参照のうえ、申請のこと。

(2) 短期研究会については、提案代表者より短期研究会申請書を提出のこと。

4. 申請期限 : (1) 中性子の共同利用 平成4年11月30日(月)

(2) S O Rの共同利用 平成4年12月11日(金)

(3) その他の共同利用 平成4年12月25日(金)

5. 申込み先 : 〒106 東京都港区六本木7丁目22番地1号

東京大学物性研究所 総務課 共同利用掛

電話(03)3478-6811 内線5031, 5032

6. 審査 : 研究課題の採否、所要経費の査定等は共同利用施設専門委員会において行い、教授会で決定する。

7. 採否の判定 : 平成5年3月上旬

8. 研究報告 : 共同利用研究(共同利用及び留学研究員)については1期(半年)ごとに実施報告書(所定の様式による)を提出のこと。また、共同利用研究によって得た成果の論文の別冊2部を総務課共同利用掛あて提出のこと。

9. 宿泊施設 : (1) 東京大学物性研究所共同利用研究員宿泊施設が利用できる。

(2) 軌道放射物性研究施設の共同利用については、東京大学原子核研究所共同利用研究員宿泊施設が利用できる。

(3) 中性子散乱実験設備の共同利用については、東京大学工学部共同利用研究員宿舎が利用できる。

10. 学生教育研究災害傷害保健の加入 : 大学院学生は『学生教育研究災害傷害保険』に加入される
ようご配慮願いたい。

外来研究員について

物性研究所においては、共同利用研究業務として、全国物性研究者の研究遂行に資するため、各種研究員制度が設けられています。これら研究員の公募は、半年ごとに行っております。外来研究員制度は個々の申請を検討のうえ実行されておりますが、特別な事情のある場合を除いて、あらかじめ共同利用施設専門委員会の了承を得る建前をとっておりますので、下記ご参照のうえ期日までに応募されるようお願いします。

その他、外来研究員制度の内容あるいは利用する設備等に関するお問い合わせにならぬことがあります。外来研究員等委員会委員長 三浦 登（内線5111）までご連絡ください。

なお、留学研究員または共同利用に申請される場合は、事前に必ず利用される研究室等の教官と打ち合わせのうえ申請書を提出してください。

申請書用紙が必要な方は総務課共同利用掛（内線5031、5032）までご請求ください。

記

1. 各種研究員

a. 嘱託研究員

(1) 所外研究者に本所の研究計画及び共同研究計画の遂行上必要な研究を委嘱することを目的としています。

(2) 嘱託研究員の委嘱は、本所所員の申請に基づいて、研究計画等を検討のうえ決定します。

b. 留学研究員

(1) 大学、官庁、その他の公的研究機関に在籍する若い研究者に、留学の便宜を提供することを目的とした制度です。

(2) 資格としては、助手ないし大学院博士課程程度の研究歴に相当する方を対象としています。

(3) 研究は所員の指導のもとで行います。大学院学生の場合、原則として指導教官を嘱託研究員に委嘱します。

(4) 申請は別紙（様式1）の申請書を提出してください。（必要な方は直接総務課共同利用掛までご請求ください。）

c. 共同利用

○ 一般の共同利用

(1) 所外研究者が研究の必要上、本所の施設を利用したい場合、その便宜を提供できるようにしております。

(2) 共同利用は「共同研究」と「施設利用」の2つの形態に分けられます。共同研究と施設利用では採択率、充足率が異なる場合があります。

また、共同研究、施設利用それぞれに、1年以内に研究を集中して遂行する「短期集中型」の利用形態が設けられています。短期集中型を希望して認められた場合には充足率を高くしますが、その後しばらくの期間、共同利用を見合せていただくことがあります。

(3) 共同利用をご希望の方は、別紙（様式2）の申請書を提出してください。

- 軌道放射物性研究施設の共同利用 (53ページ参照)
- 中性子散乱実験設備の共同利用 (54ページ参照)

2. 採否決定

上記各種研究員受入れの可否は、共同利用施設専門委員会において、申請された研究計画、研究歴及び所内諸条件を審査検討し、教授会で決定します。

採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、「外来研究員等の放射線管理内規」に従って、別紙（様式6）の「放射線業務従事承認書」を提出していただきます。

3. 実施報告書

留学研究員及び共同利用で来所の方には、1期（半年）ごとに終了後30日以内に別紙（共同研究及び短期集中型の施設利用は様式4、一般の施設利用及び留学研究員は様式5）による外来研究員実施報告書を提出していただきます。

4. 別刷の提出

外来研究員として来所されて行われた研究に関する論文の別刷2部を必ず総務課共同利用掛に提出してください。また、論文を発表される場合、謝辞の所に東京大学物性研究所の共同利用による旨の文章を入れていただくことを希望します。英文の場合の参考として、次のような例文をあげておきます。

- a) This work was carried out under the Visiting Researcher's Program of the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.
- b) This work was carried out by the joint research in the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.
- c) This work was performed using facilities of the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.

5. 経費

旅費、滞在費及び研究に要する経費は、個々の申請に基づいて共同利用施設専門委員会で査定・審査し、教授会の決定に基づき共同利用施設運営費から支出します。

6. その他の

- (1) 予算の支出、諸施設の利用、設備の管理等については、関係する所員の指示に従ってください。
- (2) 申請書は、必ず別紙様式のものを使用してください。

○ 軌道放射物性研究施設の共同利用

0.38GeV電子ストーリジング(SOR-RING)からの放射光を用いる共同利用実験の申込みについてはマシンタイムの調整を行う必要上、物性研共同利用の正式申込みの以前に下記の要領で物性研軌道放射物性研究施設にて申込んでください。

- (1) 対象となる実験：ES及びSOR-RINGからの放射光を利用する実験。
- (2) 実験期間：平成5年4月中旬から平成5年7月中旬までの期間で、利用できるマシンタイムは総計約3か月間。ただし、各ビームラインによって多少異なります。
- (3) 利用できる設備：
 - (1) SOR-RING第1ビームライン
1M縦分散瀬谷-波岡型直入射分光器
 - (2) SOR-RING第2ビームライン
2M縦分散変形ローランド型斜入射分光器、
光電子分光測定装置一式
 - (3) SOR-RING第3ビームライン
変形ワーズワース型直入射分光器
 - (4) SOR-RING第4ビームライン
平面回折格子型斜入射分光器
 - (5) SOR-RING第5ビームライン
 - (6) SOR-RING第1'ビームライン
自由ポート

なお、第3、第4ビームラインでの実験及び準備研究的な実験については、申込み前に当施設に御相談ください。

(4) 申込み要領

- | |
|--------------------------|
| (1) 希望するビームライン |
| (2) 申請研究課題 |
| (3) 申請代表者及び実験参加者、所属・職・氏名 |
| (4) 実験期間及び実施希望時期 |

- (5) 実験の目的・意義及び背景 (1,000字程度でわかりやすく書いてください。)
- (6) 関連分野における申請者のこれまでの業績 (5編以内)
- (7) 実験の方法 (800字程度、危険物や超高真空系を汚染する可能性のある物質等を使用する場合は、明示のうえ安全対策の方法を記すこと。)
- (8) 使用装置 (持込み機器も含めて)
- (9) 物性研共同利用施設運営費よりの負担を希望する消耗品の種類と費用の概算

上記項目につき記入した申請書のコピー 8部 (A4 サイズ用紙) を下記申込み先あて送付してください。

(5) 申込み先: 〒188 東京都田無市緑町3丁目2番1号
東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設
電話 (0424)61-4131 内線 295, 296
(「共同利用申込み」と表記のこと)

(6) 申込み期限: 平成4年12月11日(金) 必着とします。

(7) 審査: 物性研軌道放射物性研究施設運営委員会において審査し、採用された研究課題についてはその実験計画に従い改めて物性研外来研究員申請書及び放射線業務従事承認書を直接総務課共同利用掛 (〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号 東京大学物性研究所) に提出していただきます。

○ 中性子散乱実験設備の共同利用

(1) 中性子散乱実験設備の共同利用は、通年公募方式によって行われており、公募要領は当該年度の前年10月末に関係機関長あてに送付され、11月末に締め切られる。

申請期限: 平成4年11月30日(月)

(2) 申請用紙は物性研究所総務課共同利用掛あて請求し、必要事項を記入のうえ、同掛あて締め切り期日までに 8部 (7部は複写でも可) 提出すること。

(3) 申請された研究課題は、物性研究所中性子回折装置共同利用運営委員会及び物性研究所共同利用施設専門委員会で審査し、教授会で決定された後、結果を実験責任者あて通知する。

(4) 研究課題の申請は、原則として上記の通り年1回であるが、特に緊急を要する課題が生じた時は、その理由を付して、上記中性子回折装置共同利用運営委員会あて隨時申請することができる。

(5) 実験終了後、所定の様式で成果報告書を提出することが求められる。

(6) 受付け課題の種類

中性子回折装置の共同利用研究課題として次の2種類の課題を受け付ける。

a) 一般課題

b) 装置グループ I M T *(Instrument and Maintenance Team)課題

* I M T 課題については、第(10), (11)項を参照のこと。

(7) 共同利用に供される中性子散乱実験設備については、申請用紙の添付資料「改造3号炉中性子散乱実験設備の概要」を参照してください。

但し、2号炉に設置された「偏極解析中性子散乱装置（P A N S I）」は、運転を停止するので、利用できません。

(8) 一般課題の採択手順

1) 装置グループ（I M T）による課題の技術的検討

2) 2人のレフリーによる課題の学問的内容の審査

3) 実験審査委員会**（N S P A C）による審議を経て、上部委員会に提案される

**実験審査委員会（N S P A C）は中性子回折装置の共同利用研究課題の審査実務を分担する組織で中性子回折装置共同利用運営委員会の下部機構である。

(9) 課題採択スケジュール

10月中旬 公募の手引き配付

11月30日 公募の締切

12月中 I M Tによる技術的審査、I M T間での意見交換

12月下旬 課題申請書とI M Tの技術的コメントを2人のレフリーに配付

1月14日 レフリーの判定報告の締切

1月下旬 実験審査委員会（N S P A C）で採択審査

2月上旬 各運営委員会の審議決定

(10) 装置グループ（I M T）について

JRR-3の中性子回折装置群の維持・管理に責任を持つ組織として装置グループ I M Tが編成されている。I M Tの任務と権利等は以下のとおりである。

1) I M Tに割り当たるマシンタイム（比率P）の内容

i) 分光器の調整

ii) 分光法開発、試料環境等付属装置の開発

iii) 試料のチェック

iv) テスト実験及び緊急課題の遂行

v) 教育

2) I M Tメンバーは上記 1) に記された項目について、所属する装置グループのマシンタイムを自由に使用することができる

3) I M Tメンバーの任務

- i) 分光器の調整、整備
- ii) 試料のチェック
- iii) 一般利用者の実験の援助

(11) マシンタイムの配分

(1 - P) : 一般課題に割り当たられるマシンタイムの比率。装置責任者・IMTメンバーも含めて、各研究者が各自の研究計画に基づき申請書を提出し、実験審査委員会（NSPAC）及び運営委員会の審議により決定される。

(P) : IMTに割り当たられるマシンタイム。

なお、比率（P）の値は各IMTの申請に対し、実験審査委員会（NSPAC）及び運営委員会等で審査して年度毎に決定される。

短期研究会について

短期研究会は、物性研究上興味深い特定のテーマについて全国の研究者が1～3日間程度研究会を開き、集中的に討議するもので、提案代表者は内容、規模等について関係研究者と十分検討のうえ、申請してください。

記

1. 申 請 方 法：代表者は別紙申請書（様式3）を提出してください。
2. 提案理由の説明：提案代表者は、内容、規模等について共同利用施設専門委員会で説明していただきます。
3. 採 否 決 定：共同利用施設専門委員会の審議を経て教授会が決定します。
4. 経 費：共同利用施設専門委員会で査定・審査し、教授会の決定に基づき共同利用施設運営費から支出します。
5. 報 告 書：提案代表者は、研究会終了後すみやかに物性研により掲載する研究会報告書を提出してください。執筆に関する要領は別にお知らせします。

共同利用施設専門委員会委員

岩澤 康裕	東大(理)	小菅 皓二	京大(理)
小林 雅通	阪大(理)	小松原 武美	東北大(理)
池田 宏信	高エネルギー研	吉成 武久	山形大(理)
永田 一清	東工大(理)	大林 康二	広島大(総合)
佐藤 正俊	名大(理)	津田 惟雄	東京理科大(理)
高山 一	筑波大(物理学系)	本河 光博	神戸大(理)
武田 三男	信州大(教養)	秋光 純	青山学院大(理工)
藤田 敏三	広島大(理)	櫛田 孝司	阪大(理)
都 福仁	阪大(理)	張 紀久夫	阪大(基礎工)
宮原 恒昱	高エネルギー研	十倉 好紀	東大(理)
花崎 一郎	分子科学研究所	その他物性研所員	

外 来 研 究 員 等 の 放 射 線 管 理 内 規

(昭和57. 7. 21制定)

放射線障害予防規程第45条第3項に定める外来研究員等の放射線管理については以下のとおりとする。

1. 六本木地区

- (1) 物性研究所放射線管理室（以下「管理室」という。）は、外来研究員等の共同利用申込が承認された時に、その所属する大学又は事業所に対し「物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等の派遣についての了解事項」及び「放射線業務従事承認書」を送付する。
- (2) 外来研究員等は、放射線取扱いに先立って「放射線業務従事承認書」を管理室に提出するものとする。
- (3) 本所の放射線施設及び放射線発生装置等を初めて利用する外来研究員等に対し、当該施設の放射線管理責任者は、放射線取扱いの開始前に放射線発生装置あるいは放射性物質等の安全取扱い、立入記録の記入等についての教育訓練を実施する。
- (4) 放射線管理責任者は、外来研究員等について、フィルムバッジ等の着用の有無を確認し、それ等を持たない場合は、個人被曝線量計を貸与し被曝線量当量を測定し記録するものとする。

2. 日本原子力研究所内（東海村）－中性子回折実験装置

中性子回折実験装置等を利用する外来研究員等は、日本原子力研究所で定める放射線管理上の所要手続きをしなければならない。

3. 東大原子核研究所内（田無市）－軌道放射物性研究施設

軌道放射物性研究施設を利用する外来研究員等の放射線管理については、「軌道放射物性研究施設に係る覚書」によって行う。

4. 高エネルギー物理学研究所内設置の軌道放射物性研究施設分室を利用する外来研究員等は、高エネルギー物理学研究所で定める放射線管理上の所要手続きをしなければならない。

附 則

この内規は、平成元年4月1日から施行する。

物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等 の派遣についての了解事項

1. 外来研究員等及び所属機関の責任者は、物性研究所の放射線施設の利用に際して、以下の事項を承諾するものとする。
 2. 外来研究員等は、本所放射線障害予防規程及び当該放射線施設の管理内規に従う。
 3. 外来研究員等が利用する放射線施設等に係る管理責任（放射線発生装置、放射性物質の安全取扱い、管理区域等の線量当量の測定等の管理）は、物性研究所にあるが、「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」等で定める放射線業務従事者としての認可及び個人管理は、外来研究員等の所属機関の責任において行う。

放射線業務従事者としての認可及び個人管理とは、

 - (1) 教育訓練（物性研究所における放射線発生装置等の安全取扱いに係る教育訓練は除く）の受講。
 - (2) 血液検査などの健康管理。
 - (3) 個人被曝線量当量の測定。
 - (4) 放射線業務に従事することの可否の判定。
 4. 放射線業務に従事する外来研究員等は、所属機関の放射線取扱主任者及び管理責任者が認める放射線業務従事承認書を、物性研究所放射線管理室に提出する。
 5. 個人被曝線量計（フィルムバッジ等）は、原則として所属機関より持参し、着装して放射線業務に従事するものとする。
- 但し、個人被曝線量計のない場合は、当該施設又は放射線管理室が貸与する。

様式 1

外来研究員（留学研究員）申請書

No.

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

所 属 _____

職名又は学年 _____

ふりがな
氏 名 _____

(印)

級号俸 _____

級 _____

号俸 _____

級号俸発令年月日（ 年 月 日） _____

申請者の連絡先 電話 _____

内線 _____

FAX _____

下記研究計画により留学研究員として貴所で研究したいので申請します。

研究題目 _____

研究目的 _____

○研究の実施計画使用装置方法等詳細に。

○研究予定期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

○放射線業務に従事することの有無。 有 • 無 (○で囲むこと)

希望部門 研究室名 (部門 研究室)

他の研究室、共通実験室への共同利用を同時に申請していますか。 していない している

申請している場合の研究室、共通実験室名 ()

※ 採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、「外来研究員等の放射線管理内規」にしたがって、「放射線業務従事承認書」（様式6）を提出していただきます。

① 宿泊を必要としない申請者（日帰り）

月	日	～	月	日	(週・月)	日)
月	日	～	月	日	(週・月)	日)
月	日	～	月	日	(週・月)	日)

② 宿泊を必要とする申請者

月	日	～	月	日	(泊	日)	月	日	～	月	日	(泊	日)
月	日	～	月	日	(泊	日)	月	日	～	月	日	(泊	日)
月	日	～	月	日	(泊	日)	月	日	～	月	日	(泊	日)

物性研宿泊施設 原子核研宿泊施設 その他

③ この共同利用の際、貴所属機関から、鉄道賃、日当、宿泊料が支給されますか。

される されない

利用頻度： ① 新規 ② 過去5年間何回位利用していますか。（回）

略歴

○大学院学生は学歴を記入のこと。

上記のとおり、申請者が貴研究所において研究に従事することを承諾します。

平成 年 月 日

申請者の所属長職・氏名

印

様式 2

外来研究員（共同利用）申請書

No.

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

所 属

職名又は学年

ふりがな
氏 名



級号俸

級

号俸

級号俸発令年月日（ 年 月 日）

申請者の連絡先 電話

内線

FAX

下記研究計画により外来研究員として貴所で研究したいので申請します。

研究題目（グループで研究する場合は代表者名を記入すること。）

研究目的（グループで研究する場合は代表者のみ記入すること。）

○研究の実施計画使用装置方法等詳細に。（グループで研究する場合は代表者のみ記入すること。）

○短期集中型を希望する場合、期間（原則として1年以内）を明記してください。

平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

○共同研究・施設利用を希望する。（○で囲むこと）

○放射線業務に従事することの有無。 有・無（○で囲むこと）

希望部門 研究室名（

部門

研究室）

他の研究室、共通実験室への共同利用を同時に申請していますか。 していない している

申請している場合の研究室、共通実験室名（ ）

※ 採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、「外来研究員等の放射線管理内規」にしたがって、「放射線業務従事承認書」（様式6）を提出していただきます。

① 宿泊を必要としない申請者（日帰り）

月　　日～　　月　　日　　(週・月　　日)

月　　日～　　月　　日　　(週・月　　日)

月　　日～　　月　　日　　(週・月　　日)

② 宿泊を必要とする申請者

月　　日～　　月　　日（泊　　日）　　月　　日～　　月　　日（泊　　日）

月　　日～　　月　　日（泊　　日）　　月　　日～　　月　　日（泊　　日）

月　　日～　　月　　日（泊　　日）　　月　　日～　　月　　日（泊　　日）

物性研宿泊施設 原子核研宿泊施設 その他

③ この共同利用の際、貴所属機関から、鉄道賃、日当、宿泊料が支給されますか。

される されない

利用頻度： ① 新規 ② 過去5年間何回位利用していますか。（回）

略歴

○大学院学生は学歴を記入のこと。

上記のとおり、申請者が貴研究所において研究に従事することを承諾します。

平成　　年　　月　　日

申請者の所属長職・氏名

印

様式3

短期研究会申請書

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

提案代表者

所 属

職 名

氏 名

印

連絡先 電 話 内線
F A X

下記のとおり短期研究会の開催を提案したいので申請します。

記

1. 研究会の名称

2. 提案理由

理由書は、400字以上600字まで（B5版横書き）とし、提案理由及び研究会内容がよくわかるように記載してください。

特に物性研で開催することの必要性や意義を明記してください。

3. 開催期間

月 日 ～ 月 日 (日間)

開始時間 _____ :

4. 参加予定者数 約 名

5. 希望事項 (○で囲む)

予稿集 : 有 ● 無 その他希望事項
公 開 ● 非公開

6. その他(代表者以外の提案者)

所属機関・職名を記入のこと

7. 旅費の支給を必要とする者

	氏名	所属	職名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

8. その他主要参加者

	氏名	所属	職名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

平成 年 月 日

外來研究員共同研究実施報告書
施設利用(短期集中型)

東京大学物性研究所長 殿

所 属

職 名

氏 名

印

下記のとおり貴研究所の施設を利用しましたので、報告します。

記

① 研究題目

② 利用期間 自 平成 年 月 日
 至 平成 年 月 日

③ 利用研究室または

共通実験室名 _____

④ 共同研究者氏名及び所属職名

氏名	職名	所属名	備考

⑤ 研究実施経過(利用機器、利用手段方法、成果、約1,000字(B5版横書き))

⑥ 成果の公表の方法(投稿予定の論文のタイトル、雑誌名など。短期集中型の場合は終了時のみ)

注 意

- (1) グループ研究の場合は、代表者が記入のこと。
- (2) 各期終了後30日以内に提出すること。

様式 5

平成 年 月 日

外來研究員施設利用実施報告書
留 学 研 究 員

東京大学物性研究所長 殿

所 属

職 名

氏 名

印

下記のとおり貴研究所の施設を利用しましたので、報告します。

記

① 研究題目

② 利用期間

自 平成 年 月 日

至 平成 年 月 日

③ 利用研究室または

共同実験室名 _____

④ 共同研究者氏名及び所属職名

氏名	職名	所属名	備考

⑤ 研究実施経過（利用機器、利用手段方法、成果、約400字（B5版横書き））

注 意

- (1) グループ研究の場合は、代表者が記入のこと。
- (2) 各期終了後30日以内に提出すること。

樣式 6

平成 年 月 日

放射線業務從事承認書

東京大学物性研究所長 殿

機 関 名

所 在 地

放射線取扱主任者名

印

所屬機關代表者名

四

当機関は、「物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等の派遣についての了解事項」を承諾して、下記の者が貴研究所において放射線業務に従事することを承認しましたのでよろしくお願ひします。

なお、下記の者については、当機関において放射線障害防止法、あるいは人事院規則（10-5）等の法規に基づいて放射線業務従事者として管理が行われていることを証明します。

記

(注) この承認書の有効期間は、年度末までです。

Technical Report of ISSP 新刊リスト

Ser. A

No. 2565 Method of Car-Parrinello Molecular Dynamics Calculations with Conservation of Total Energy. by Yoshifumi Sakamoto.

No. 2566 Lattice Gas Model of Si(111). by Yoshifumi Sakamoto and Junjiro Kanamori.

No. 2567 Superfluidity of Thin ^4He Films Adsorbed on Well Defined Porous Glasses.
by Minoru Kubota.

No. 2568 High-Field Magnetotransport Phenomena in Organic Low-Dimensional Conductors.
by Toshihito Osada, Seiichi Kagoshima and Noboru Miura.

No. 2569 Phase of the Field in the Interaction with Two Two-Level Atoms. by I. Jex,
M. Matsuoka and M. Koashi.

No. 2570 Magnetic Field Induced Electronic Phase Transition in Graphite—Pulse Field Experiment at ^3He Temperatures —. by Hiroshi Yaguchi, Yasuhiro Iye,
Tadashi Takamasu and Noboru Miura.

No. 2571 Magnetic Properties of an Organic Biradical, m-BNN: m-Phenylene Bis(α -Nitronyl Nitroxide). by Daisuke Shiomi, Masafumi Tamura, Hiroshi Sawa, Reizo Kato and
Minoru Kinoshita.

No. 2572 High Resistivity in the Quasicrystals. by Mahito Kohmoto and Hisashi Hiramoto.

No. 2573 Quantum Wire Networks. by Mahito Kohmoto.

No. 2574 Spin-Peierls Fluctuation and Dimerization—A Possible Mechanism of Superconductivity—. by Masatoshi Imada.

No. 2575 Crossover of Spin Correlations in the One-Dimensional Hubbard Model. by
Masatoshi Imada, Nobuo Furukawa and T. M. Rice.

No. 2576 Low Temperature Nuclear Spin-Lattice Relaxation Process in the Cu(2) sites of
 $\text{YBa}_2\text{Cu}_3\text{O}_{6.98}$. by Takashi Ohno, Hiroshi Yasuoka and Yutaka Ueda.

No. 2577 Many-Body Effects on Magneto-Luminescence Due to Acceptor States in Semi-conductor Quantum Wells. by Shin-ichi Katayama and Tsuneya Ando.

No. 2578 Quantum Hall Conduction in Quantum Wires. by Tsuneya Ando and Hideo Aoki.

No. 2579 Persistent Currents and Edge States in a Magnetic Field. by Yshai Avishai,
Yasuhiro Hatsugai and Mahito Kohmoto.

No. 2580 Insignificance of Vertex Corrections in the Plasmon Mechanism of Superconductivity at Low Electron Concentration: Migdal's Theorem in the Antiadiabatic Region. by Yasutami Takada.

No. 2581 Photoemission Study of CeNi Single Crystals. by Takayuki Kashiwakura, Shoji Suzuki, Tetsuo Okane, Sigeru Sato, Toyohiko Kinoshita, Akito Kakizaki, Takehiko Ishii, Yosikazu Isikawa, Hiroshi Yamagami and Akira Hasegawa.

No. 2582 XPS and UPS Studies of Electoronic Structures of YbB_6 . by Akito Kakizaki, Ayumi Harasawa, Toyohiko Kinoshita, Takehiko Ishii, Takao Nanba and Satoru Kunii.

No. 2583 Relations between Oxygen Deficiency and Structures in the La-Sr-Cu-O System ;
(I) A New Oxygen-Deficient Phase $(\text{La}, \text{Sr})_5\text{Cu}_5\text{O}_{13}$. by Kenji Otsuchi, Akihiko Hayashi, Yohko Fujiwara and Yutaka Ueda.

No. 2584 Studies of Uranium Compounds by Photoemission and Bremsstrahlung Isochromat Spectroscopy. by Takehiko Ishii.

- No. 2585 Bandpass Photon Detector for Inverse Photoemission Spectroscopy. by
K. Yokoyama, K. Nishihara, K. Mimura, Y. Hari, M. Taniguchi, Y. Ueda and
M. Fujisawa.
- No. 2586 Metal Insulator Transition of Two-Dimensional Hubbard Model. by Nobuo Furukawa
and Masatoshi Imada.
- No. 2587 Refinement of the Si(111) $\sqrt{3}\times\sqrt{3}$ -Ag Structure by Surface X-Ray Diffraction.
by Toshio Takahashi and Shinichiro Nakatani.
- No. 2588 Itinerant Electron Metamagnetism and Large Decrease in Electronic Specific Heat
Coefficient of Laves Phase Compounds Lu(Co_{1-x}Ga_x)₂. by K. Murata, K. Fukamichi,
T. Sakakibara, T. Goto and K. Suzuki.
- No. 2589 Magnetic Properties of Tb_{1-x}R_xFe₁₀Si₂(R=Y, U) Solid Solutions. by A. V.
Andreev, W. Suski, T. Goto and I. Oguro.
- No. 2590 Coexistence of Superconductivity and Antiferromagnetic Ordering in ErPb₂. by
Yasumasa Hattori, Kazuaki Fukamichi, Tsuneaki Goto and Kenji Suzuki.
- No. 2591 Berry's Phase of Bloch Electrons in Electromagnetic Fields. by Mahito Kohmoto.

編 集 後 記

物性研だより11月号をお届けします。本号では元所員の菅原先生から物性研将来計画（中間報告）に関するご意見を頂きました。同計画に対するご意見、ご批判等お待ちしております。

新任の河野、常行両所員から原稿を頂きました。創立35周年記念行事の内容も掲載されております。

次号の原稿の締切は、12月10日です。

高 橋 敏 男
福 谷 克 之

